

第34号

発行 丸橋 齒科「良い歯の会」
発行所 群馬県高崎市栄町21-1
TEL 027-323-9524
FAX 027-322-3139
http://www.maruhashi.com/
E-mail:maruhashi.s@cb.wakwak.com

医・農・智

自然は 無表情
自然は 沈黙
自然は 無窮

無明な 衆生
ただ 真理への愛
ゆるがない 強い心を

持ち続ける だけ

澄んだ心で
双方向に
見つめる時

暗闇に 一閃の光が
見えてくる

いのち

(辻本仁志)

「良い歯の会」機関紙

いのち

治療の理想から
愛は一步も退かない

「良い歯の会」主宰 丸橋 賢

四〇年前の患者さんの言葉

「四〇年前に治してもらった歯が、今もピクともしない。この年まで元気に生きられました。有難くて…」
「生きている間は先生にお世話になりたいから、体気を付けて長生きしてもらわないと困る…」

退かない理由は愛か？

最近、別の女性から電話をもらいました。四十五年前に私が勤務医の頃、東京で治療をした患者さんからです。歯が弱くて、あちこち悪くなつてしまつたけれど、昔私が治療した歯だけがまだ大丈夫だと言います。それで私を探して、相談の電話を下されたのです。話しているうち、その女性の顔も、当時のことも、次第にはつきりと思ひ出しました。

愛を守る者は強く闘う

動物は子を襲うものと生命を賭けて闘います。人間はそれに加え、真実を侵すものと闘います。いや闘うのが人間の存在証明でしょう。私は太平洋戦争関係の本を沢山読んできましたが、歴史の中で強制される悲惨の多くは反知性、反合理といつた精神の人間によつてつくられることを、この戦争でも痛感させられます。例えば初めから食料や弾薬

アジアの反省

中国、カンボジア、ベトナム、インドネシア、その他アジアの国々に共通する大きな特徴の一つは、コネや袖の下が普通に通用することです。もう一つは、自分たちの住む環境である空気、水、街を清潔にコントロールすることができないことです。街は排気ガスで曇り、川は汚れ、リゾートの海も汚れています。自分をコントロールできない人間には、環境もコントロールできないと見られます。悔しいかな白人の管理下にあるリゾートは、山も海も空気もとてもきれいで、その差は克服困難な大きさです。私はこれこそ日本人にも共通する反合理精神のなせるところと考えています。



心の底にほこほこと熱く燃えるものは、年をとつても少年の頃と変わらないもの…。(高校2年生の頃の筆者)

「生きている間は先生にお世話になりたいから、体気を付けて長生きしてもらわないと困る…」と言つて、検診で来院したその男性は声を詰まらせた。さらに「生きていく間は先生にお世話になりたいから、体気を付けて長生きしてもらわないと困る…」と言つて、涙が顔中に溢れました。私も胸が熱くなりました。

「医療は心良き人がよりよく生きるためにある」という定義が通用する範囲の内の人と人、つまり患者さんと医師の間に、双方向的に強く成立する愛である、というのが正確なのでしょう。

「医療は心良き人がよりよく生きるためにある」という定義が通用する範囲の内の人と人、つまり患者さんと医師の間に、双方向的に強く成立する愛である、というのが正確なのでしょう。

は考えています。当時の欧米と比較して、牟田口に代表されるような反知性、反合理を、私は決して許してはいけなと考えています。次々に飢え死ぬ日本兵の死体が敷き詰められたインパールの道は白骨街道と呼ばれました。そのような悲劇が、牟田口からその上司、河辺正三(ビルマ方面軍司令官、河辺に内意を与えた東条英機へと連なる日本的な反知性の連鎖によつて作られたことを私たちは検証するべきだと思つてい

丸橋 賢 著 農文協 出版
観察力
観察力を育てる
丸橋 賢 著
丸橋 賢 著
咬み合わせ不良の予防と治療
みんなのための家庭の歯学
正しい「歯の矯正」の本
いのちを見つめて歯から治す
三人作 丸橋 賢 著 春秋社
全人歯科革命
全人的治療への道
癒しの思想
噛める幸せ インプラントの実際
咬み合わせ不良の予防と治療
みんなのための家庭の歯学
正しい「歯の矯正」の本
いのちを見つめて歯から治す

咬み合わせで変わる 自律神経 バランス

日本全身咬合学会認定指導医 亀井琢正



自律神経測定装置。指にセンサーを装着し、5分で測定できる。

昨年導入した血流から調べる自律神経測定装置により、全身の体調を整える自律神経に咬み合わせが強く影響していることが分かりました。自律神経は、血液循環、呼吸、消化、生殖の機能を調節する働きを持ち、いのちを司る大事な神経システムで、咬み合わせ不良による自律神経への影響が説明できれば、大変画期的なことと言えます。

咬み合わせ不調を訴える患者さんの多くは、色々な不定愁訴を訴えます。頭痛、肩こり、四肢のしびれ、冷え症やのぼせ、集中力低下や無気力など症状は様々です。いろいろな症状が複合して、特定の原因がはっきりしないものを、医学では不定愁訴と呼びます。原因の一つに自律神経が考えられ、自律神経失調症の病名がよく使われています。咬み合わせ不良を治すと、これらの不定愁訴が改善することがよくありますが、治療により、どの程度不定愁訴が改善したのか、今までは客観的には分かりませんでした。しかし咬み合わせと自律神経との関係が分かればこれらの症状に説明がつくのです。

自律神経は全身の活動と休息を調整し、活動を支配する交感神経と、休息に関係する副交感神経に分かれます。自律神経の狂いは、体の活動と休息のバランスが乱れ、不定愁訴を引き起こします。正常な自律神経の活動は、日中で交感神経と副交感神経の比率が半々かやや交感神経が優位なのが理想です。

咬み合わせ不良は顎の位置がズレます。このズレを正すためには、マウスピース様のスプリントや、バイトトライ(DT)と呼ばれる方法で顎の応急的な位置補正を行います。咬み合わせ不良を持つ患者さんを対象に治療の前後で自律神経を測定すると、ほとんどの患者さんで、自律神経のバランスが改善されました。顎のズレで姿勢が落ちてくると、精神的にも緊張した状態の人が、自律神経の交感神経が過剰に働いていることが多く、顎のズレを補正すると交感神経と副交感神経のバランスが平衡に近づいて行きます。また、咬み合わせ不良でうつのように元気がない方は、副交感神経が過剰に働き、顎の補正を行うと、同様に副交感神経の働きが正常に近づき、自律神経のバランスが改善されるのです。このように、顎の位置の改善が、自律神経に大きく関与していることがわかりました。

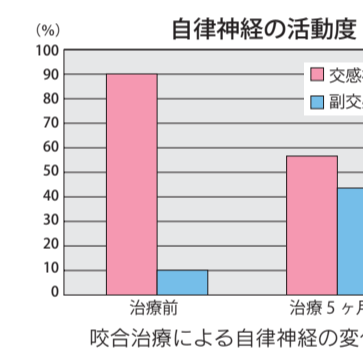
人間の体は、ストレスに対処するため、自律神経が体を整えようと働きます。咬み合わせ不良や顎のズレは体に大きなストレスとなり自律神経が乱されていくものと考えられ、これらの歪みを正すと自律神経が改善すると思われれます。しかし、顎の位置が歪んだ状態が長い間続くと、歪みを正すのに時間を必要とし、自律神経と不定愁訴の改善にも時間がかかります。

今回測定した方の中にも大学病院

をはじめ数々の咬み合わせ治療を受けてきた方がいます。治療開始時は自律神経全体を100として交感神経の割合が90という極度に過剰な値を示しましたが、5ヶ月ほどの治療で徐々にひどい症状も改善し交感神経の割合が56程度まで改善されました。顎のズレを正せば比較的短時間でストレスから開放され、自律神経のバランスも改善されますが、ズレが長期に及ぶ場合は自律神経の改善にも時間がかかることが分かります。この装置により、我々は多くのことが分かり、また今までの現場で感じていたことの証明にもなりました。今後、咬み合わせと自律神経との関係がより明らかになれば、これまで歯科界で認知されなかった大きな問題が解決される足がかりになると期待されます。

インプラントを安全に、しかも少ないストレスで手術し、その日のうちに固定式の歯で食事ができるようにする技術に、フラップレス手術があります。この方法で手術を行うと、手術後の腫れや痛みがほとんどなく、翌日から通常の生活が可能です。通常インプラントは、骨を覆う厚さ3ミリ程度の歯茎を切って剥離し、フラップ(骨から剥がした歯茎)を作ることによって、骨幅を直視し、骨の十分な位置に植立します。フラップレスとは、フラップを形成せずにインプラント手術を行うものです。その

場合、どのようにして骨を確認し、インプラントを植立するのかが疑問に思われることと思います。それにはまずCT撮影が必要です。そして、撮影したCT画像をパソコン上の専用ソフトに取り込み、将来装着される補綴物に対して最適でかつ骨が十分ある位置にインプラントが植立できるように設計します。次にこのデータを用いて海外に送信し、インプラントの植立位置や深さ、方向が正確に再現されたサージカルガイドと呼ばれるものが作られ、送られてきます。(写真1)あとは、麻酔をして、こ



装置の通りに手術を行えば、設計した通りにインプラントが植立できます。設計と実際との誤差は、熟練して正確に手術を行えば0.3mm程度です。この装置を使うと、植立されるインプラントの位置が正確に再現されるため、手術前にぴったり適合した固定式の仮歯を作っておくことができます。そのため、全く歯がない総入れ歯の方では、手術開始から3時間程度で歯を装着して帰宅でき、状況が一変します。他にもこの方法を使えば、前歯を審美的に仕上げるために有用な場合や治療期間の短縮、また、再生手術が不要になるなど、治療費用を抑え、手術の経済的負担やストレスが格段に軽減される場合もあります。さらに、上顎洞や下顎の骨の中を走る下歯槽神経といった、インプラント手術を行う上で注意すべき構造を避けて設計を行うことができ、確実に、そして安全に手術を行うことができます。

次の方は、下顎に4本のインプラントを植立してその日のうちに固定式の仮歯を装着した方です。最終的には4本のインプラントで12本の歯を支えるオールオン4という技術です。インプラント手術前は下顎の総入れ歯の安定が悪く、写真2のように歯がない状況でしたが、手術の2時間半後には写真3のように固定式の仮歯が装着され、普通のご飯などは食べられるようになり、患者さんは驚きとともに、大変喜んで帰宅されました。写真4は手術後のレントゲン写真です。神経などを正確に避け、長さ18ミリの長いしっかりしたインプラントが、CTで設計した通りの位置に植立できています。この方法では長いインプラントを植立することが非常に大切になってきます。手術の翌日の状況を聞くと、痛み、腫れが全くなく、何の違和感もない普通の生活ができたとのことでした。

丸橋全人 歯科口腔外科部長 辻本仁志

写真1：CT上で設計された情報をもとに作成されたサージカルガイド。

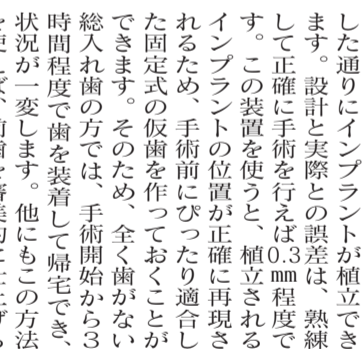


写真2：手術前。総入れ歯が装着されていた下顎は、歯がない状況。(矢印)

最近の歯列矯正の傾向は、非抜歯治療が主流のように思えます。もちろん、当院でも可能であれば、非抜歯での歯列矯正を第一に考えています。

非抜歯での歯列矯正について

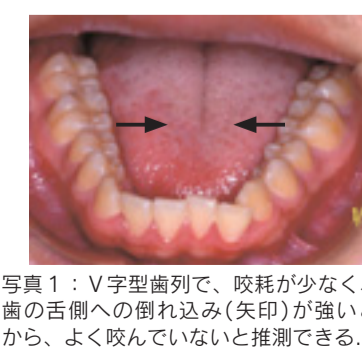
丸橋全人 歯科総合診療部長 海老澤博

骨が十分ないときできない手術ですが、患者さんへ恩恵は大きく、再生治療との組み合わせで、治療の選択肢が増える方法と期待しています。



写真3：手術2時間半後には、固定式の歯を調整し、装着した。(矢印)

また、歯は頬筋や口輪筋などの歯列の外側からの力と、舌による内側からの力のバランスの取れるところと並びます。



奥歯で咬み応えのあるものを咬むとき、顎は縦方向の開閉する運動だけではなく、食べ物をすり潰すために、前後・左右方向の臼歯運動を行います。この臼歯運動が、顎骨や歯槽骨の正常な発育と、左右対称で広い歯列の獲得のために必要であることが、最近の研究で示唆されています。(写真1)

写真1：V字型歯列で、咬耗が少なく、臼歯の舌側への倒れ込み(矢印)が強いことから、よく咬んでいないと推測できる。

しかし、実際にはすべてのケースで非抜歯による治療が可能なわけではありません。もともと、歯列不正になる最大の原因は、歯の大きさに対して、顎の大きさが小さいことです。顎の大きさは、遺伝的な要因はあっても、後天的には咀嚼機能の発達によって形作られると考えられます。

昨今の、我が国の子供たちの成長発育を見ていると、身長はすらっと伸び、手足は長く、顔はほっそりと面長になり、成長発育の方向性に明らかな変化がみられます。

このような体型の変化は、戦前の日本人に比べ、食生活を中心としたライフスタイルの著しい多様化が強く影響しているものと考えられます。主食が精白され、肉を中心とした動物性蛋白質の摂取が増え、高カロリーで高脂質な食事になったことが大きな要因と思われます。

一方で、加工食品が増え、食事の軟食化によって咀嚼回数が劇的に減りました。これにより、咀嚼筋の発達が悪くなり、咬合力の減少を来しています。咬合力の減少は、顎骨や歯槽骨の発育に好ましくありません。



写真2：無理な非抜歯による歯列矯正後の後戻り。クラウディングが再発し、抜歯による再治療が必要。

一時的には歯列は広がり、歯をきれいに並べることが出来ます。しかし、無理に歯列を広げると、悪い歯並びへの「後戻り」を起こします(写真2)。

この後戻りが酷い場合には、再度矯正治療を行わなければならないケースもあり、患者さんの負担は少なくありません。

そして、後戻り以外にも様々な弊害が出てきます。

最も起こりやすい弊害は、前歯の前突(出っ歯)と開咬(前歯が咬まなくなる)です。歯列を拡大し、横に広がる限度を超えると、前歯の前に押し出されて出っ歯になります。この前突と開咬の状態は、見た目が悪いばかりでなく、咬み合わせも悪いため、歯が咬合性外傷になりやすく、歯を支える歯槽骨が溶けて歯周病になるリスクが極めて高いのです。また、無理に歯列を広げると、歯根が歯槽骨からはみ出し、歯肉の退縮や知覚過敏を起こすこともあり(写真3)。

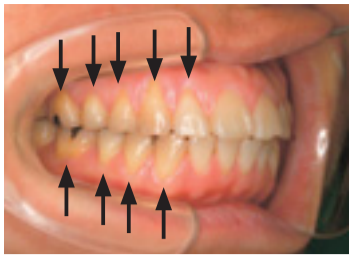


写真3：無理な非抜歯による歯列矯正は、歯肉の退縮と知覚過敏を生じる(矢印)。後戻りもしやすい。

このように、的確な診断に基づかない無理な非抜歯での歯列矯正は、歯がきちんと並びにくいばかりか、治療の予後が非常に悪く、健康を害する危険さえあります。したがって、安易に流行の治療に飛びつくのではなく、きちんとしたエビデンスに基づいた治療をお受けになることが、審美的にも、健康の観点からも大切なことです。

治療を受けた患者さんの声

おたより紹介

静岡県 静岡県 T・F

私の治療は、先生泣かせだったと思います。と言うのは、身体が金属を受け付けないからです。そんな事ってある？と思われるでしょうね。

以前、虫歯の治療で金属を詰めて以来、ずっと金属のアクセサリー等が出来なくなり、ショッピンクセンターや電気店も、電磁波を受けてしまい苦手になっていました。そんな体質が原因で、どこの歯科医院でも抜歯してもらえなかった親知らず。二病院を紹介するから、2、3日入院をして抜いてもらって下さい。けれど、失敗すれば顔面麻痺もある。と説明されていました。親知らずに押されて、前歯がずれてきていた事も気になっていたので、丸橋全人歯科で抜歯できると聞いた時は、うれしさが先行してしまいました。アッと言う間の親知らずの抜歯、歯周ポケットの治療も終わり、ピンク色のきれいな歯茎を取り戻す事が出来ました。

本格的な治療が始まり、ずれてしまった歯の矯正をする為、装置を付けたのですが、口の中が腫れたり、傷になったり、気圧の変化についていけず、首、肘に鈍痛が出て、治療が続けられなくなり中止しました。(先生が他の方法で治療してくれたようです)そして、左下奥にゴールドの被せ物を装着したのですが、天候、気圧の変化で鉛をかかえたような鈍い重さ、左腕や肩の痛み、急な温度差には、坐骨神経痛や足首の冷えまでもが出てしまったのです。「こんなに過激な方もいるんですね。」と院長先生も戸惑いながら、私の話を聞いて下さいました。「丈夫さには欠けるけれど、セラミックでやってみましょう」という事になり、被せたゴールドを外し、大分以前に治療していた金属の詰め物もすべて取り外し、セラミックで

の治療を受けました。今は、左右上下の奥歯がセラミックになりとてもきれいです。そして、噛み心地も悪くありません。うれしくて仕方がありません。身体の違和感もなく、遠い昔、自分の歯だった頃の心地よさに浸っています。

私のように金属の為に身体の異常が起きている方もいるのではと感じています。一人でも笑顔を取り戻せたらうれしいですね。ゴールドからセラミックへと予定を変更しながら、私の身体に合う治療法へと進み、いろいろ体験させていただいた長かった治療が終了しました。特殊な私の身体と向き合っていた、院長先生、諸先生方、スタッフの皆さんありがとうございました。

新しい歯は大切な宝物

神奈川県 神奈川県 (匿名) (主婦・63歳)

三十歳にして歯周病になり、ブラッシングを懸命にやり続けたにもかかわらず、五十代半ばには、動揺がひどく食事に支障を来し、噛めない苦しさで気分は沈むばかりでした。

インプラント治療については、以前から是非やりたいと医院探しをしていましたが、「今の医学では、絶対に無理」と断られたいきさつもあり、諦めかけていました。悪化するばかりの日々に焦り悩んでいた頃、丸橋先生の著書に出会い、すぐに予約をお願いしました。

初診時、丸橋先生の「インプラント治療ができるし、肩こりもとれて元気になるよ」との言葉に天にも昇る心地がし、帰路の時間がとても短く感じられたものです。それから通院が楽しく、元来臆病者なのに苦にならず、往復七時間の道のりを旅気分ですべて通っていました。治療計画によると十二本のインプラント、増骨も数箇所あり、金銭面の心配をしましたが、最初に費用のすべてを明らかに提示して下さいましたので安心して臨めたのです。担当の辻本先生は、私の願っていた通りの先生でした。経験豊富で腕も確か、治療前後の丁寧な説明、幸

体調不良は本当に歯で治った!

埼玉県 (匿名) (会社員・37歳)



初診時、歯周病が進み噛めない苦しさで気分が沈んでいた。持病に対する対策も奏功して、治療後と変わらない骨を、現在も維持している。

丸橋全人歯科を知ったのは、「体調不良は歯で治る!」という本がきっかけでした。今となってはうまく思



初診時、下顎が左にずれ、上下の正中があつていない。体調も悪かった。

もあり少し迷いましたが、顎がカクカクしてずっと痛かったこともあり受診することを決めました。初診の時に丸橋先生に診断してもらい、治療方針は、最初スプリントという装置をつけて顎の位置を調整した後に、金属で補綴して噛めるようにするというものでした。スプリントを初めて使用した時は、ちゃんと噛み合わせが合っているとこんなに体が楽なのかと感動しました。その



プリントで下顎の位置を修正したところ、下顎のずれが改善し、体調がよくなった。

の後、1か月に1回調整してもらいうちに体調が良くなっていくのを実感できました。治療が進み、補綴する歯を少なくするために矯正治療をしていたことに気がつきました。大人になると歯は動きにくいというイメージがありましたが、下の奥歯に矯正用のインプラントを入れてもらったこともあり歯列はとてきれいなになりました。その結果、当初の予定よりかなり少ない下の奥歯左右2本ずつの4本だけの補綴ですみ、しっかりと噛めるようになった。



下顎の位置が狂わないように矯正治療を行い、歯並びの弱点を改善した。

たし、矯正中はとても痛いし不便でした。特に自分の場合だと噛み合わせがおそらく幼少の頃からずれていて顔や体の歪みを完全になくするのは難しかったのだと思います。しかし、治療を受ける前と後では比較にならないぐらい体調が良くなりましたし、疲れにくくなりました。治療をせず、噛み合わせがずれたまま過ごしていたことを想像するとぞっとします。本当に自分は運が良かったと思います。できればもっと早く子供の頃に丸橋全人歯科に出会いたかったです。

遠くて近い道

愛知県 (主婦 自営業) H・M 手伝い・44歳

もし丸橋歯科がなかったら...?と思うと悲惨な光景が目に見え、ゾッとします。きつと今でも顔は醜く爛れたまま、サングラスをかけ続けていた事でしょう。

二年前、初めて丸橋歯科を訪れた頃の私は、突然吹き出したアトピー性皮膚炎によって顔の2/3が真っ赤に爛れ、首と両手も同じ状態でした。幼い頃からアトピー体質でしたが、西洋医学ではアトピーは治らないと痛感し、20代後半から脱ステロイドを試みました。玄米菜食を徹底し、人間本来の健康とは何なのか...。必死で探りました。大変な毎日でしたが学びも多く、30代半ばには完全に克服出来たと思っておりましたが、それが40才を過ぎて更に酷く再発し、自分なりに手を尽くしても、もう何

の効果も得られませんでした。非常に辛い毎日、「奈落の底から出る術が何もない...。」という絶望的な心理状態でした。「やはり丸橋先生に見て頂こう。」そう思ったのは、こんな状態が一年近く続いた頃です。15年程前から先生の本を読んだり、感銘と共に熟読しておりましたが、高橋はあまりに遠く、子供を抱えた主婦では通えないと思っていたのです。一大決心のち診察台に座った私に、「大丈夫です。治ります。薬を使用していないのなら効果は早いですよ。」と先生は穏やかに仰いました。そしてその言葉の通り、治療が始まると、あんなに酷かったアトピーは半年足らずで消滅してしまつたのです。診察の度に噛み合わせと自律神経との関係や治療を、こちらが恐縮してしまふ程の謙虚な御姿勢で話して下さいました。先生方の姿を拝見して、人として正しく生きる事の意味と大切さを学びました。そして丸橋歯科には健康に生きる為の全ての道が通じていると確信しました。結局、遠い遠いと思っていた高崎への道のりが、健康(真理)への一番の近道だったと悟った私の治療体験でした。



初診時、歯周病で噛み合わせが狂い、アトピーが再発していた。



治療後、噛み合わせが改善し、アトピーが消えた。

食と健康を考える院内研修に参加して

安島小春

今回の研修の概略ですが、午前中はスタッフで協力して栄養バランスが良く、実際に自宅で実践出来るような料理を作りました。午後は事前に与えられたテーマで、歯と食、健康に関しての討論を行いました。

午前中に行われた調理実習では、班ごとに分かれ同じメニューで料理を作り、味を競いました。普段は美味しい野菜を選べば調味料などほとんど使わずに、野菜の味をそのまま美味しく食べられることに気づきました。普段食べている野菜はドレッシングなどをかけないと、正直、美味しく食べられませんでした。しかし野菜も美味しいものを選べばこんなにも野菜の味が楽しめるということに理解でき、とても勉強になりました。

具だくさん味噌汁を各班で作ったのですが、調理時間や食材を入れたのタイミングによって、それぞれの班で味が違うのがまた面白かったです。同じ様に作っても少しの違いで味が変わるのだと実感しました。



午前中は各班に分かれ、同じメニューで調理を行った

午後は食や歯と食の関係などについて討論しました。最近ではインスタント食品や加工食品などが多く販売され、調理をするのが楽になった反面、体に良くない事は事実です。様々な添加物が含まれているので、注意しなければいけません。やはり素材本来の味を楽しめる調理をしたいと思えました。その他、農法の違い、野菜の効用、生活習慣病などについて学ぶことができました。

こうして全員で発表し合うこと、意見を交換し合うことによって、生活への考え方が大きく変わりました。自分たちで調理することで、今後役に立ち、健康を考えて食事を書くことができると思います。歯を治すだけではなく、食生活などから見直していかなければ、健康な身体も歯も手に入らないのだと思いました。

この研修に参加して学んだことを今後に生かし、健康な身体と歯をいつでも保ちたいと思います。



午後には、与えられた課題のレポートを提出し、活発な討議を行った。

研修会での献立・食材

【当日の献立】

- ほうれん草のおひたし
- ちくわとごぼうの炒め煮
- 厚揚げの豚肉巻き
- 具だくさん味噌汁
- ご飯(三分搗き米)



良い歯の会にご参加ください

■日時 毎月第2土曜日 午後1時30分～5時

■場所 丸橋全人歯科3階研修室

■内容 4回連続参加で1シリーズ

	内 容	開 催 月		
①	環境と人間の生き方を考える	1月	5月	9月
②	ムシバ予防を中心に家族を考える	2月	6月	10月
③	歯周病と生活習慣病を克服しよう	3月	7月	11月
④	退化病と闘う	4月	8月	12月

■定員 60人(入場無料)お電話でご予約ください。☎027-323-9524

ご家族、お友達などお誘い合わせのうえ、ご参加ください。どなたでも参加できます。

試食会も行っています(本物食品と市販食品の食べ比べやおすすめメニュー紹介など)。

「良い歯の会」HP <http://yoihanokai.jp/>

ブログ <http://ameblo.jp/yoihanokai/>

【ごだわりの食材】
・野菜類は丸橋院長や大塚秋則さんが作った無農薬有機栽培野菜。醤油・味噌みりんなどの調味料は、国内産の大豆やコメ・麦を使ったヤマキ醸造や白扇酒造の製品。厚揚げ・油揚げは国産大豆で作った三之助茂木豆腐店。どれも無農薬栽培のもの。ちくわも添加物を使用していないものを採って取り寄せた。

【良い歯の会おすすめ】
【具だくさん味噌汁の作り方】
*材料
煮干し(だし用)、こんぶ(だし用)、味噌、大根、にんじん、じゃがいも、油揚げ、小松菜、長ねぎ
①煮干しの頭、中骨、内臓を取り除き、身だけにしておく。
②鍋に味噌汁用の水を入れ、こんぶ、下処理した煮干し、干しいたけを加え、加熱する。
③鍋のだしが沸騰したら、大根、にんじん、玉ねぎ、じゃがいも、油揚げを入れ、十分位煮る。
④野菜が固めに煮えたら、味噌を溶かし入れ、味を調える。
⑤火を止めたら、小松菜、長ねぎを加えてできあがり。

「良い歯の会」東京特別講演と歯科治療相談の会

—安心できる歯科治療を知る—

参加無料

2014年10月19日(日) 9:30 ~ 16:30
会場: 御茶ノ水ソラシティ (JR御茶ノ水駅徒歩1分)

○講演

第1部 10:00 ~ 12:00

①「歯から体と心を調整する全人歯科医学の実際」

良い歯の会主宰 丸橋全人歯科院長 丸橋賢

②「人類学から見た現代人の顔と歯」

京都大学名誉教授

元京都大学霊長類研究所所長 茂原信生 先生

第2部 13:00 ~ 15:30

13:30~ 咬み合わせと歯列矯正

14:30~ インプラントと造骨治療

2題を予定

同時開催 歯科治療相談と健康展 (9:30~16:30)

丸橋歯科のドクターが無料で治療相談に応じます。歯科治療に関する展示を丸橋歯科のスタッフが説明します。



茂原先生

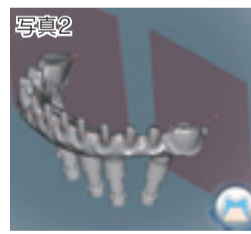
写真1



レーザー光を利用してスキャンングする最新機器、ジェニオンII。

次世代のスクリーニング技術、レーザー光を利用したコノスコピック・ホログラフィを搭載した最新機種、ジェニオンIIと呼ばれるスクリーニング機器及びそのデータを基にパソコンソフト上で補綴物を設計するノーベルプロセラシステムを導入しました。このシステムでは、従来の三角測量法などを利用したスクリーニングに比べ、より複雑な構造体のスクリーニングが可能になっています。みなさんの補綴物をワックスやレジンで複製したパターンや印象を行った模型をレーザー光でスキャンし(写真1)、そのデータを基にパソコン上で設計や修正を加えながら製作物のデザインを行います。出来上がったデータ(写真2)を国内の工場(暮張

写真2



ジェニオンIIからのデータを基にパソコンソフト上で設計された補綴物のフレーム。

に送信することで、巨大なミリング機器により、一人一人のお口に合った補綴物やその骨格となるフレームが出来上がります(写真3)。この

写真3



データに基づき、チタンブロックを削り出して作られた補綴物のフレーム。

方法で補綴物を仕上げると、従来のようなワックスパターン埋没時の変形や鑄込み時の鑄造収縮といった補綴物のひずみをなくすることができ、高い適合精度を実現することができ、また、生体親和性が高く非常に軽いチタンの他、歯の色に近く透明感が高いジルコニアやアルミナと

当院のHP(ホームページ)をリニューアル!

新患予約(後日こちらからTEL)ドクターの治療相談など受付中です。

<http://www.maruhashi.com/>

丸橋全人歯科 検索

編集後記



チタンフレームの上に歯を作成し、装着された適合精度の高い補綴物。

冒頭の丸橋先生の記事の中に「治療の理想に向かって一歩も退かず」という記載がありました。治療に対する、またこうあるべきという真理に対する強い意志を感じます。強い意志と理念を持って治療に当たるところが当院のひとつの大きな特徴で、長年に亘って患者さんから支持を受けている理由のように思います。今年も治療を受けられた患者さんに寄稿していただきましたが、権威や既存の常識等にとらわれない、真理を謙虚に観察する姿勢が、不可能と思われる治療を可能にし、患者さんの健康を回復することにつながっていると感じます。自律神経バランスと咬合の関係も解明されつつあります。院内研修を開催しました。我々も健康でなければ患者さんに十分な治療を提供できません。強い意志を貫くには健全な体が不可欠です。今後このような機会を作り、全員で理解を深めてゆけたらと考えています。(辻本仁志)